

【報告】

鹿児島大学と戦争遺跡を調査

(第一回…計画と浜平地区踏査)

令和七年は、太平洋戦争の終結から八〇年目を迎える年です。垂水市内には、トーチカや掩体壕(えんたいこう)のような、いわゆる「戦争遺跡」らしい遺構(いこう)はあまり残存してはいませんが、シラス台地の特質をよく活かしたといえる「地下壕」が多く点在しています。地下壕や航空隊基地が作られた立地や地質条件は、そのまま垂水の地形や地質の特徴をよく表しています。

そんな垂水市において、特に戦争遺跡というテーマで調査研究し、地域の歴史と魅力を再発見しようと、鹿児島大学の学生さんたちが手を挙げてくれました。六月一日に行われた一回目の調査日には、市内の近世近代の文化財について学び、これから調査してみたい内容や調査方法について検討し、浜平にある「赤迫川地下壕群」や、「旧垂水海軍航空隊之碑」、道の駅たるみずはまびらの目の前にある「魚雷航跡監視台場跡」を見学し、調査計画を深めていきました。

今年度は市内の各地にて、複数回にわたって調査を行い、市民のみならずへの成果発表会も見据えていく予定です。垂水史談会からも若干名が調査に協力しています。読者のなかで、戦中・戦後のことを知る方などがいらっしやいましたら、ぜひ、垂水史談会事務局を通じて、学生たちの調査研究にご協力をいただけたら幸いに思います。

(第二回…新城・震洋基地踏査)

六月二十六日、新城の白崩(したくえ)に残る、モーターボート型の特攻艇・震洋の発射基地であったと伝わる洞窟の踏査と草はらいを行いました。戦時中、新城の白崩には、第47震洋隊がつくられました。「垂水資料集(十)新城編」には、「戦局の拡大につれて我が新城にも先ず麓下の通称岩ん下の海岸に海軍の震洋艇基地が設定され、いわゆる本土決戦に備えて搭乗員二人乗りの特殊艇で敵艦に体当たり訓練の基地で、二十数隻の震洋艇による猛訓練が続けられていた。」とあります。(震洋隊の実態は、分からない点が多いです。情報や資料がありましたら、お知らせください。)

この日の参加者は、鹿児島大学からは、法文学部の石田先生と4回生の山元さん、史談会からは瀬角さん、山田さん、市来さん、高嶺さんと古場をして、新城公民館の浜田さんの8名。干潮時をねらって震洋洞



(高嶺 光佑)



窟へ。鎌やノコギリで、生い茂る暖竹や雑木を切り払いました。そうすると、明らかに人為的に平らに削られた二列の岩が現れました。この上に震洋を設置したのでしようか。他にも、両側面に同じように空けられたような穴も見つけました。これも震洋基地の痕跡か? ワクワクが高まります。踏査に参加した山元創平さんは、「こんな規模の震洋基地は初めてです。」と目を輝かせて語ってくれました。気がつけばあっという間に2時間が経過。実り多い踏査でした。次回は待ち遠しい! (古場 昌彦)

第六垂水丸慰霊碑周辺を清掃しました

五月三十一日、垂水史談会の方々と第六垂水丸慰霊碑の周りの除草活動に参加いたしました。毎年この時期になれば、待っていたかのように草は生え、木々も人の生活圏になんの躊躇もなく成長していきます。皆様がこの慰霊碑を想うときに、いつでもきれいな環境で手を合わせていただけるようにとの思いで、私も今回の除草活動に参加いたしました。また草だけでなく、ビニール袋や缶なども見かけました。そんな姿を見れば、まだ1年足らずの垂水在住の自分も少し悲しい気持ちになります。



八月十日には、毎年恒例の史跡清掃を計画しています。皆様、ぜひご参加ください! (高嶺 健二)

垂水かるた 大好評!

「垂水かるたは、厳正な抽選のもと、五名の方にプレゼントします。」と、前号に書きました。六月三日市立図書館にて、会長、事務局長、製作者の高嶺さんの3名で、抽選を行い、六月七日土曜日に当選者のご自宅を訪問して、垂水かるたをお渡ししました。とっても喜んでいただけました。5月の展示の感想にあったように、このかるたが、垂水のよさを知ったり、市外の人に伝えたり、歴史や風土・文化について興味をもつきっかけになってくれると最高です。(古場 昌彦)



当選した垂水小3年
森咲美梨さんとおか
あさん

(追記) 六月十一日には、協和小学校へも かるたの贈呈を行いました。その時の模様は、「広報たるみず」7月号をご覧ください。六月二十八日には、有志のみなさんのご協力をいただき、垂水かるたの追加製作を行いました。今後、ほかの小学校や学童保育へも贈呈できたらと考えています。

まち歩き講座 第1回

「あなたの知らない垂水が見つかる。瀬角さんとブラブラ歩いて学ぼう、ブラゼすみ」と銘打って今年も始まりましたまち歩き講座第1回が、六月二十二日に行われました。今回は、市民館駐車場を出発して、下宮地区を経由して、港地区方面までブラブラしました。講座の受講者に加えて、史談会会員、さらに垂水在住の

外国人の方たちも合わせて、三十名以上の参加者が集まり、わいわいやかな道のりでした。

和田英作のアトリエを横目に見て、垂水中央中の旧正門前のイチョウ並木の痕跡を確認した後、最初の目的地・下宮神社（鹿児島神社）です。ここでは、西南戦争、日清戦争、日露戦争の石碑を確認しました。その横に建てられた桜島の大正噴火に際する六河川の河川修復記念碑は、その存在を初めて知りました。下宮神社の敷地内にある護国神社の建物を確認した後、瀬角さんから、



「この木はなんの木でしょう？」といきなりの質問が。みんな分かりますか？？？ 正解は、「チシヤの木」でした。幹や葉が、カキの木に似ています。その場でググってみると、「若葉がチシヤ（レタス）に似ていること由来し、別名カキノキダマシと呼ばれていた。」さらに、江戸時代は、なんとカキの木に税がかけられていたので、庶民は「この木は、カキの木じゃなくてチシヤの木だ。」といって課税を逃れようとしたという「瀬角まめ情報」が！

カキの実がなくても、「チシヤの木だ！」と言い張ったつわものもいたとか。（笑）歴史だけでなく、植物にも造詣が深い瀬角さんの面目躍如。当時の庶民のたくましさを感じて、思わずニヤリ。

下宮神社を後にして、本城橋をわたり、港地区へ向かいました。垂水小の校歌の5番に「下宮橋の浜つづき」という歌詞がありますが、現在「下宮橋」はありません。「本城橋」に変わってしまったそうです。なくなってしまった地名がたくさんありますね。地名は歴史やかつての生活を知る手がかりにもなるので、どこかに残してほしいなあって思います。本城橋の欄干には、垂水側は「本城橋」、浜平側は「ほんじょうばし」というプレートが入っています。橋は、必ずこういう構造になっているそうです。理由はわかりますか？

本城橋を渡って、港地区へ。港は、もともと「水門」という字をあてて、「みなと」と言われていたそうです。橋をわたってすぐ、鶴田スタンドそばに、キヌサヤインゲンの父・末田浅一顕彰碑がありました。ガイドがついてのまち歩きでなければ、見逃してしまいそうなスポットでした。さらに、道を進み、大興寺の敷地内にある菩提樹を眺め、塩田記念碑へ。

「かつては、港地区だけでなく、中俣や海潟でも塩づくりは盛んに行われていました。・・・」なんていう説明を聞いていたら、一転にわかにかき曇り、突然の豪雨！雷雨！どじやぶり！傘があってもみんなずぶぬれ、濡れぬずみ！いやあ、降るとは思ってたけど、ここまでとはね。近くのお宅の車庫をお借りして、雨やどり。やれやれ。でも、なぜか楽しそうな顔が多かった。

雨は小降りになりましたが、まだ降ってきそうだったので、予定を切り上げて、市民館にもどることにしました。途中、江戸時代の豪商・大迫十右衛門の墓に寄りました。「大迫十右衛門、初めて聞きました！」って方は、「研究ノート」を見てね！草や木が茂っていて、墓石が見えにくかったので、天気の良い日に改めて来てみたいです。帰りは、垂水大橋を渡りました。行きに、本城橋の欄干で勉強したよい子たちは、「垂水大橋」「たるみずおおはし」のプレートをしっかり確認しましたよ。橋をわたった後の旧港へ続く道路が昔の海岸線だったという説明があると、「そうだった。そうだった。」と当時を覚えているみなさんから同調の声が。道沿いにある海岸公園に残る何本かの松が生き証人ですね。生憎の天候で予定通りに歩くことはできませんでしたが、「アクシデントもふくめてとっても楽しかった。」と笑顔で感想を述べてくださる方が多くて、ほっとしました。（古場 昌彦）

△まち歩き講座△

第二回 七月二十七日（日） 午前9時 手貫神社集合

※龍門軒や水分神社などをブラブラします。

午前十一時か十一時半ごろ終了予定。

★天候によっては、座学になります。悪しからず。

第三回 八月二十四日（日） 午前9時境地区公民館集合

△研究ノート△ 「垂水市史」より

◆大迫十右衛門って、だれ？

今から約二百年の昔、浜平芝原に大迫十右衛門という有名な製糖業、製蠟業者がいた。彼は、琉球などと密貿易も行い、巨万の財をたくわえた。「浜のまさこはつきぬとも、ズヨンドンのお金はなくなることはあるまい。」と言われたという。このころ薩摩藩は、最も財政の苦しい時で、二十七代斉興の時、即ち調所笑左右門が財政立て直しにのりだしていたところで、幾度か金銭や物資を献上したので、名字帯刀を許されたと言われます。

十右衛門の墓は、本城港の大迫家の墓の中央にあり、礎石を含めて五段からなり、蓮華の彫刻も技工が優れている。高さ二メートル十五、墓石九十センチ、横三十センチ、縦センチ。

△島津墓所現地説明会△

七月三十一日（木） 午後1時半～3時

※駐車場は、垂水小の駐車場をご利用ください。

長い距離の歩行が難しい方は、島津墓地駐車場をお使いください。（1, 2台程度ならば駐車可能です。）

△八月の予定△

今年には戦後80年をむかえます。80年もの長い期間戦争をしなかったということは、世界中見渡しても非常にまれな、誇るべきことだと思えます。この平和を守るために、悲惨な戦争の実相を知ることが、非常に重要です。特に、「戦争体験を聴く」会には、会員のみなさんだけでなく、お知り合いの方や次代をになう若者・子どもたちにも、足を運んでもらい、実感的に学ぶ機会にしてみたいと願っています。

今年は、広い会場で行います。例年以上のはたらきかけを宜しくお願いします。

○「戦争について知ろう」展

八月一日（金）～三十一日（日） 垂水市立図書館にて

○「戦争体験を聴く」会

八月三日（日）午後1時半より 市民館1階大ホールにて

○史跡清掃

八月十日（日） 午前7時 垂水小駐車場に集合

※お長屋周辺、第六垂水丸慰霊碑周辺、殿様水周辺の清掃を行います。草刈り機だけでなく、鎌で払ったり、熊手やほうきで集めたりする人も必要です。1時間程度で終わる予定です。ご協力をよろしくお願い致します。